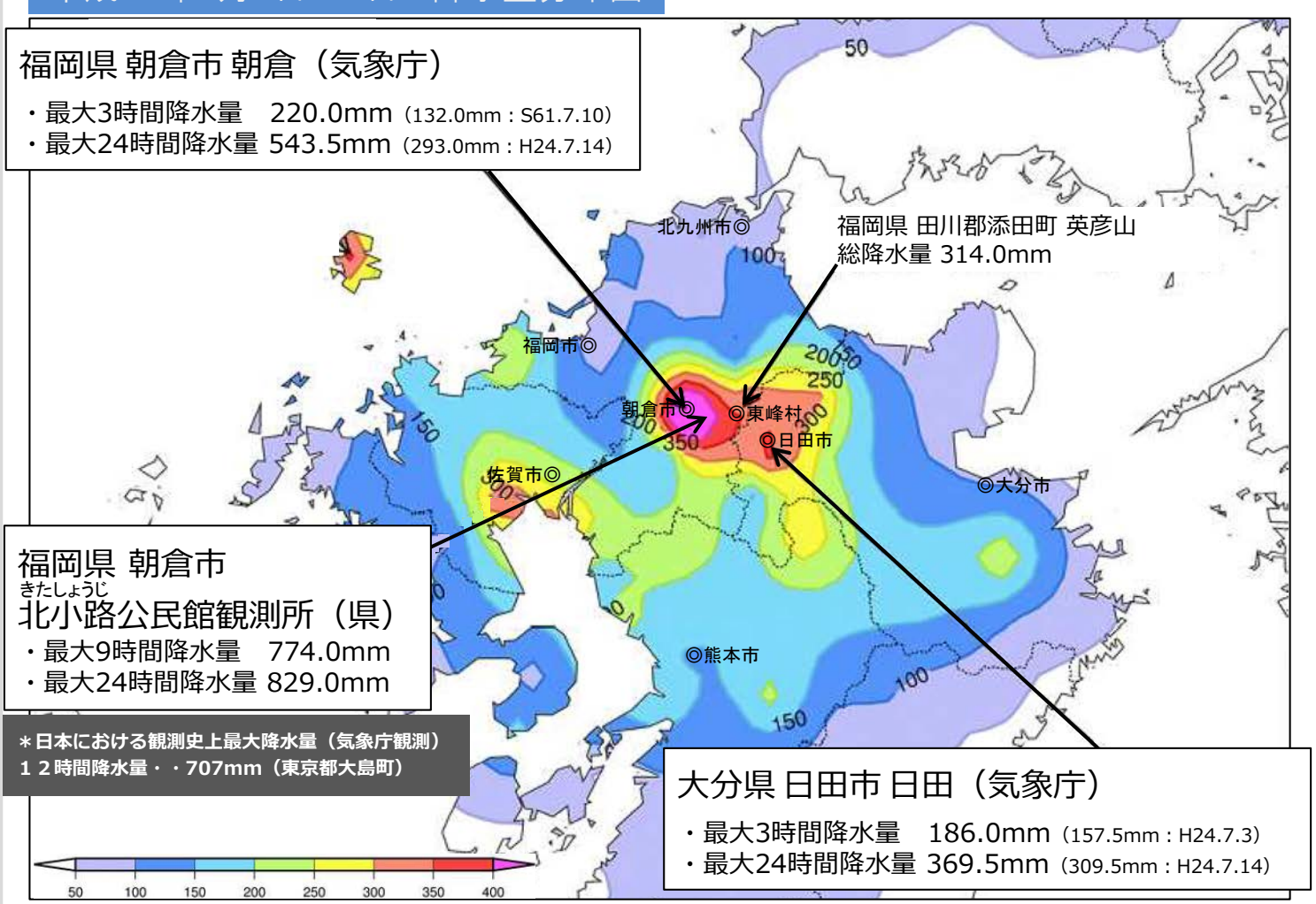
観測史上最大の2倍の雨量

九州初の大雨特別警報発令、記録的な豪雨が発生

平成29年7月5日、昼頃から夜にかけて九州北部で局地的に非常に激しい雨が降り、福岡県・大分県に九州地方では初めての大雨特別警報が発表された。

気象庁雨量観測所（朝倉市543.5mm、日田市369.5mm）で、各観測所最高記録を更新した他、福岡県雨量観測所（朝倉市 北小路(きたしょうじ)）で、日本における観測史上最大12時間降水量（707mm）を9時間で超過（774mm）する等、記録的な豪雨となった。

平成29年7月5日～6日の降水量分布図



出典：気象庁公表資料を基に観測雨量を整理

平成29年7月九州北部豪雨の概要

発生日時：平成29年7月5日～6日（福岡県内23市町村、大分県内15市町村に大雨特別警報発令）
人的被害：死者･行方不明者数42名　重傷者13名　軽傷者9名
住宅被害：全壊335棟　半壊1,091棟　床上浸水172棟　床下浸水1,441棟

出典：福岡県と大分県のHP（H30.6.1時点）より。両県の被害を合計

大量の流木がまちを襲う

大量の流木が流れ込んだ福岡県朝倉市山田地区

山腹崩壊が多数発生し、大量の土砂や流木が市街地へ

記録的な豪雨の影響で筑後川中流右岸側の支川上流域では多数の山腹崩壊が発生し、土砂と一緒に大量の流木が市街地へ流れ込んだ。今回の豪雨災害ではこの流木が被害の拡大を招いた。福岡県朝倉市の三連水車も被災するなど、各地で甚大な被害が発生した。

山腹崩壊が多数発生した福岡県朝倉市

被災した国史跡 三連水車（福岡県朝倉市）

防災ヘリから被災調査

九州地方整備局防災ヘリ「はるかぜ号」

防災ヘリで被災状況を調査し、リアルタイムで情報を提供

被災状況の全容把握や早期復旧の参考にするため、九州地方整備局保有の「はるかぜ号」、四国地方整備局保有の「愛らんど号」により、朝倉市や東峰村、日田市の立入困難な被災現場を上空から調査した。被災した自治体にリアルタイムで情報提供し、迅速な対応に役立てた。

上空から被災状況を確認（福岡県朝倉市）

被災した自治体にリアルタイムで情報を提供

TEC-FORCEが被災地に集結

全国から集結したTEC-FORCEが被災地へ出発(H29.7.7)

災害対応のスペシャリストが被災地支援に全力

土砂災害により通行不能となった道路や濁流により決壊した河川など、被災状況の全容把握や被災地の早期復旧に向けた技術的支援を行うため、全国からTEC-FORCEが被災地に集結。災害発生から延べ3,441人が派遣され、被災地の早期復旧に取り組んだ。

被災調査（福岡県朝倉市）

道路啓開(福岡県東峰村)

孤立解消に全力

昼夜を問わず啓開作業を実施（H29.7.6）

豪雨による被災車両撤去に災害対策基本法を初適用

九州北部豪雨による土砂災害で、道路が寸断され孤立状態となっていた福岡県朝倉市の黒川地区に繋がる国道211号の通行確保に向け、昼夜を問わず福岡県に代わって道路啓開を実施。豪雨災害で災害対策基本法を全国で初めて適用し、車両を撤去するなど平成29年7月14日に緊急車両の通行を再開することが出来た。

豪雨による被災車両の撤去状況（福岡県東峰村）（H29.7.6）

開通後に通行する緊急車両（H29.7.14）

洪水から まちを守る

堤防の欠損が発生した大分県日田市花月川左岸1k800付近(H29.7.6)

被害が大きい河川管理施設の緊急復旧工事を迅速に完了

観測史上最高水位を記録した筑後川水系花月川では、濁流により河川堤防の欠損が発生。直ちに災害対策照明車を現地に派遣し、24時間態勢で8日間にわたる緊急復旧工事を実施、完了した。この他、被害が大きかった3箇所を含め平成29年7月14日までに全ての緊急復旧工事が完了した。

24時間態勢で緊急復旧を実施(H29.7.12)

緊急復旧工事が完了(H29.7.14)

被災地に寄り添う支援

澁谷 博昭東峰村長の側で説明するTEC-FORCE隊長

幹部職員の派遣で被災自治体の技術支援を強化

被災自治体では、多岐に渡る災害対応が求められる一方で、技術職員が少ない。復旧に向けた助言を行うため、現地で活動するTEC-FORCEを統括する隊長として整備局の幹部職員を直ちに派遣し、首長等へ被災状況の報告や応急復旧に向けた技術支援を行った。

自治体・警察・自衛隊に被災状況を共有

被災状況調査の進捗を澁谷 博昭東峰村長に説明

ドローンの映像をSNSで公開

立ち入り困難な被災現場をドローンで詳細に調査

大規模な斜面崩壊が発生し、濁流や流木により人の立ち入りが困難な現場へTEC-FORCEのドローン飛行部隊を派遣し、瞬時に被災状況を把握した。このドローンで撮影した映像はSNS上で公開し、被害の甚大さを広く伝えるのに役立った。

TEC-FORCEドローン飛行部隊による調査

整備局職員が自ら操縦

地域の建設業者が故郷を守る

被災した河川の緊急復旧作業

地域の建設業者が昼夜を問わず復旧作業に取り組む

災害発生直後から被害の拡大を防ぐため、重機による土のう設置や流木撤去など過酷な災害現場の中で昼夜を問わず復旧作業に取り組んだ。建設業者は、地域の守り手としての重要な役割を担っている。

荷原川の流木撤去作業

被災した国道211号の応急復旧作業

海からも流木回収

漁業者と連携し流木を回収する海洋環境整備船「海輝」(H29.7.23)

漁業者とも連携して漂流する流木を回収

九州北部豪雨後、有明海・周防灘に大量の流木などが漂流した。九州地方整備局は、船舶航行の安全確保のため、福岡有明海漁業協同組合連合会、佐賀県有明海漁業協同組合等とも連携し、他地整の応援船とともに流木などを回収。

平成29年8月24日までに2,690本の流木をはじめ、2,033m^{3}の漂流物を回収した。

漁船から流木を回収

台船を用いて大量の流木を回収

全国初 河川復旧を国が代行

被災を受けた福岡県朝倉市赤谷川(H29.7.11)

全国初の権限代行制度により国が土砂や流木の除去を実施

福岡県が管理する河川では、大量の土砂や流木が流出した。国土交通省は、小川 洋福岡県知事からの要請を受け、権限代行により国が土砂や流木を除去し、緊急的な河道の確保に取り組む赤谷川応急復旧工事推進チームを設置し、災害復旧工事を強力に推進する。

「赤谷川応急復旧工事推進チーム」発足(H29.7.21)

土砂や流木の撤去に着手(H29.7.19)

復興への祈り

被災した花月川の河川敷で行われた千年あかり(H29.11.11)

被災した各地で復旧・復興を願い、歩み始める

大分県日田市の花月川では、豪雨により河川敷に堆積した土砂を撤去し、竹灯籠によるイベント「千年あかり」にて、約3万本の竹灯籠に復興の願いを込めた火が灯された。

福岡県朝倉市では、稲作の田を支える三連水車が回りだし、東峰村では竹地区棚田の火祭りが開催されるなど、復興へと歩み出している。

土砂・流木が撤去され再び稼働し始めた国史跡 三連水車(H29.8)

花月川河川敷に敷き詰められた沢山の竹灯籠(H29.11.12)

東峰村竹地区棚田の火祭りで幻想的に彩る1200本のトーチ(H30.6.9)

2次災害を防ぐ

土師川において設置が完了した流木捕捉のための強靱ワイヤーネット工（仮設）（H30.3.29）

上流域に不安定な状態で残る土砂や流木を捕捉

崩壊が多数発生した赤谷川流域には、上流部に不安定な状態で堆積している土砂や流木が残存し、小規模な降雨でも流出するおそれがあることから、堆積した土砂の撤去に加えて、流域全体地域の安全性をより高めるため、土砂・流木を捕捉する施設の整備を行っている。

今もなお赤谷川上流に残存する不安定な土砂や流木

完成した土砂止め工（仮設）の状況（H29.12.27）

土砂・流木との闘い

赤谷川の応急復旧工事に着手(H29.7)

川の原形が分からなくなる程の大量の土砂や流木を撤去

大きな被害を受けた赤谷川流域では、元の川の形が分からなくなるほど大量の土砂や流木が流れ込み、川を埋塞させた。安全に洪水を流下させるため、平成30年5月末までに河川周辺の土砂6万立方メートル(25mプール約123杯分)、流木3万2千立方メートル(25mプール約65杯分)を撤去し、被災前の水量が流せる程度まで復旧が完了している。

＊25mプールの容積は25m×13m×1.5mで換算

大量の土砂や流木が流れ込んだ赤谷川(H29.7)

被災前の水量が流せる程度に復旧した赤谷川(H30.5)

復旧・復興へ前進

「九州北部豪雨復興出張所（九州北部豪雨復興センター）を設置して復旧・復興を協力に推進（H30.4）

本格的な梅雨期を迎える前に応急復旧完了

赤谷川流域における復旧・復興を強力に推進していくため、平成30年4月1日に九州北部豪雨復興出張所（九州北部豪雨復興センター）を設置。本格的な梅雨期前の平成30年5月末には、赤谷川流域において応急復旧が完了し、復旧・復興へ一歩前進した。

地域の更なる安全・安心のため、平成34年度を目途に本復旧を行っていく。

被災直後の赤谷川の状況

応急復旧工事が完了した赤谷川（H30.3.23）